

## 日本葬送文化学会<公開講座>のご案内

拝啓 仲秋の候、皆様におかれましてはご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年は、シンポジウム「変わる葬送文化 — 今なぜ家族葬なのか」にお越しいただき、ありがとうございました。おかげさまで、ご来場の方々や関係各方面よりご好評をいただくことができました。

そこで、本年は公開講座「葬送を支えるそれぞれの世界 — 伝統と現代」を開催いたします。葬送文化への理解とともに、知的好奇心に応える内容となっています。ぜひ、お越しいただければ幸いです。

敬具

### 開催概要

日時： 2014年11月15日（土）13時30分開場 14時～16時30分

会場： ティアラこうとう 地下1F 中会議室

江東区住吉2-28-36 TEL03-3635-5500

地下鉄「住吉」駅下車A4出口より徒歩4分

テーマ： **葬送を支えるそれぞれの世界 — 伝統と現代**

講演1) **現代に生きる家紋の話** —— **会長 (株)北進 杉浦昌則 氏**

「男の子 出来て夫婦の 紋が知れ」(江戸川柳) 家紋は夫婦であっても、別の紋です。女性は嫁いでも、一生生家の紋を背負って生きてきます。葬儀は古来より家を中心とした儀式であり、また、死者がこの世 からあの世に向かうとき、面識のない祖先と無事会うことができるための目印として、その意義を託しているとも云われます。日本人は誰もが紋章(家紋)を持ち、シンプルで美しいそのデザインは外国からも高い評価を受けています。この素晴らしい伝統文化を一緒に学んでみましょう。

講演2) **東京の霊柩車の変遷** —— **(株)東礼自動車 村田和隆 氏**

人が亡くなり火葬するまでのさまざまな儀式は、亡くなられた方を黄泉の国へお送りするため、長い歴史とともに培われてきた日本の文化です。その中で、霊柩車の役割は、故人の死を悼みその人生を大切に思う気持ち、また、残されたご遺族の気持ちを尊重し、葬儀施行の原点でもある「野辺の送り」の重要な部分を担当するものです。「人の心をお運びする」自動車運送業者として歩んできた当社の資料を中心に、明治以降、時代とともに変わってきた霊柩車のさまざまな形をご覧いただきながら解説します。

### 講演 3) 火葬場の新しいサービスについて

—— (株) 誠行社 石井範明 氏 大村英二 氏

親しい人を亡くした時、最後のお別れの場となるのが火葬場ですが、その多くはどこかよそよそしく、事務的なサービスと無機質な空間です。鎌倉の町外れにある小さな火葬場、誠行社では、20～30代の若いスタッフを中心に、葬儀から火葬まで一貫して担当者がお世話する、遺族の心情に寄り添った運営を行なっています。文化人が集まる鎌倉・逗子・葉山の地で、創業 105 年という歴史を刻んできた当社の地域との関わり、民営ならではの新しい火葬場サービスについて、事例を交えてお話しします。

◆入場無料 (お申込み先着順 定員 100 名)

◆参加お申込み方法

参加ご希望の方は、ハガキに住所・お名前を明記の上、下記あてお送りください。

またはメール(ウェブサイト内問い合わせフォーム)をご利用ください。

◆お問い合わせ先

**日本葬送文化学会事務局**

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-14 日本橋KNビル 4F

TEL : 03-5201-3364 (9 時～17 時)

<http://www.sosobunka.com>